

平成 21 年度 第 1 回当別町地域公共交通活性化協議会 議事録

日時：平成 21 年 7 月 6 日 15:00～

場所：当別町役場第二庁舎 2 階会議室

出席委員 18 名、欠席委員 5 名（内代理出席 2 名）、オブザーバー 3 名、傍聴人 2 名

1 開会（司会：増輪事務局長）

2 会長挨拶（近藤会長）

公共交通活性化事業は 2 年目に入り、4 月より新しいダイヤでの運行を始め、今年度の新規事業の準備を進めているところである。本日は、昨年度の実績報告及び決算報告、国土交通大臣表彰の報告や、バス車両の購入やバス祭りなど今年度事業の審議を予定している。

また、前回 3 月に開催した協議会において、事業計画・予算案について協議会で承認いただき、既にバスの実証運行事業はスタートしている。本協議会において、平成 20 年度の会計閉鎖と監査が遅れたことと、国の 1 次補正予算の関係により、協議会の開催が遅くなったことをお詫び申し上げます。

3 委嘱状の交付（近藤会長）

会長より委嘱状交付。

北海道石狩支庁地域振興部地域政策課長	川島 尚樹
当別町 P T A 連合会 会長	高橋 昭大
当別町女性団体連絡協議会 理事	宮尾 道子
当別町商工会 事務局長	土肥 繁義
当別町社会福祉協議会 主任	只野 輝樹

当日欠席のため、名前のみ紹介。

札幌土木現業所当別出張所長	小澤 俊郎
当別町高齢者クラブ連合会 副会長	菊池 久
当別町福祉部長	小山 久夫

4 報告（事務局）

（1）平成 20 年度活性化・再生総合事業実績報告について 資料 1-1、1-2

新たに協議会に加わった方が多くいるので、バス事業の経過を 1 ページの資料を基に説明。平成 18 年度より「当別町コミュニティバス実証運行事業」を始め、民間の送迎バスと青山線の路線バス、町の福祉バスを統合した新しいバス交通をスタートさせた。

平成 20 年度からは新たに施行された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき、当別町地域公共交通活性化協議会を設置して、国の補助金を受けながら、当別ふれあいバスを中心とした、公共交通の活性化に図るべく、事業を進めている。

4 ページでは実施した協議会の内容について、記載している。

5 ページから 12 ページまではふれあいバス利用者数の実績で、平成 20 年度は 133,820

人と昨年比 2.7%の増加。

13 ページからは運賃収入の実績で、平成 20 年度は 10,698,500 円と昨年比 9.7%の増加。

16 ページは SuiSui ふれバの実績で、単独での採算ラインに乗せることはできなかった。

17 ページからは設備の整備として、待合所を 2 基設置、バス車内には音声映像アナウンスシステムを導入した。現在、流す映像を試行錯誤している。

19 ページ以降は利用促進策として、小中学校におけるモビリティマネジメントの実施、ニューズレターや交通マップの発行、てんぷら油回収システムの構築、利用促進ツアーや車内展示会の開催などの説明。

てんぷら油回収システムの構築では、キャンペーンの前後で一般家庭からの回収量が 2.6 倍に増えている。

調査研究事業について、またその他資料については参考資料として別冊にまとめてあるので参照願いたい。

質疑

(1) の報告について、質疑はなし。

(2) 平成 20 年度協議会決算報告及び監査報告について 資料 2-1、2-2、2-3、2-4

収入については、参加事業者負担金 31,280,000 円と国の地域公共交通活性化・再生総合事業費補助金が 25,200,000 円のほか、雑入として利子収入が 25,233 円あった。

支出については、総務管理費は経費節減に努めたため 210,697 円の減。

実証運行委託は運賃収入が増加したことと経費の節減に努めたため、4,281,815 円の減。

バス待合所は設置数を減少したため、3,497,947 円の減。

公共交通情報提供システムは、昨年度に町が策定した当別町地域情報化計画と連動し、管理経費の節減などを図るよう取り組むこととして、平成 20 年度中の導入を見送ったため、1,365,000 円の減。

バス車内アナウンス・情報提供システムは契約差金が出たため、295,095 円の減。

情報提供システム管理事務機器は、プリンタを利用促進にも活用するために、149,750 円増額した。

調査研究と広報公聴費の委託費は一体で契約したため、調査研究は 53,000 円の増となったが、広報公聴費は 766,000 円の減となったため、全体として経費を節減することができた。

広報公聴費の需要費は利用促進ツアー、車内展示会、使用済みてんぷら油回収システムの構築、小中学生の授業経費が含まれており、当初より事業の数が増えたため、85,478 円の増。

資料 2-2 は法律で定められて財産管理台帳で、一つ当たり 50 万円以上の備品が対象。

資料 2-3 は本年度購入した 1 万円以上の備品の台帳。

引き続き、監査である鈴木委員より監査報告を行う。

平成 21 年 6 月 11 日に、当別町役場中会議室において、監査である山内委員とともに、事務局職員の立会いのもと、平成 20 年度当別町地域公共交通活性化協議会に係る会計並びに出納に関する書類、帳簿、通帳を確認したところ、適正に行われているものと認められましたので、報告いたします。

質疑

(2) の報告について、質疑はなし。

(3) 平成 2 1 年地域公共交通活性化・再生優良団体大臣表彰について 資料 3-1、3-2

国土交通省より、ふれあいバスの取り組みにより国土交通大臣表彰を受ける。資料 3-1 は国土交通省からの通知文。資料 3-2 は 7 月 1 日の報道発表の資料。

協議会より町長以下 3 名と、運行事業者である下段モータースに対し出席を依頼した。

質疑

(3) の報告について、質疑はなし。

(4) 利用促進バスツアーの開催について 資料 4

チラシは 7 月 1 日の朝刊と小中学校にて配布。チラシの裏面に SuiSui ふれバの宣伝を掲載し、利用促進を図った。

チケットについては、球団側から無料提供されたため、経費の大半は貸切バスとチラシの印刷・折り込みとなる。事業単独の予算額は 18 万円。

大人数での札幌ドームの移動となり、参加者は会場に不慣れな人が多いと予想されるため、会場の説明や誘導を当別ファイターズクラブに協力いただく。

質疑

(4) の報告について、質疑はなし。

5 議事 (事務局)

(1) 夏休み冬休み限定定期の料金について 資料 5

この事例の先進地である千歳市に実績を聞いたところ、小学生 1 人当りの平均利用回数は 5 ~ 6 回程度。割安感を持ってもらわなければ利用促進に繋がらないため、金額を変更する。ここで協議が整えば、変更した料金で来週以降に販売を開始できるよう進める。

質疑

(1) の議事について、質疑はなし。

(2) バス車両の導入について 資料 6

車両は日野「ポンチョ」。ノンステップバスで 7 m のタイプはこの車両 1 台のみ。町内市街地など細い路地を走ること、高齢者向けにノンステップバスとするため、この車両を購入する。車両は 1 0 月に開催予定しているバス祭りに間に合うように納車を予定。

質疑

質問：滝本委員 (当別町建設水道部長)

費用の関係についても説明願いたい。

回答：五十嵐事務局員

当初予算では 1695 万円を計上しており、予算の範囲内での導入を予定している。

(3) バス祭りの進捗について 資料 7

10月4日、日曜日に開催決定。会場は駅前駐車場とふれあい倉庫。イベントを通じてふれあいバスの乗客が増えるよう取り組む。

車両展示会にはJR北海道のDMVを展示予定。この他、ハイブリットバスについてはJR北海道バスや北海道運輸局の協力のもと、札幌市内のバス会社が展示。試験運行も予定。また、北海道運輸局でバスの乗り方教室などを開催予定。

イベント参加者に無料乗車券を渡し、バスに乗るよう促す。バスに乗った人には景品が渡るなど工夫する。

子ども会育成連合会の駅伝リレーを同時開催することで、イベントのターゲットでもある子供の参加者を増やす。時間など大きく被らないように調整する。

質疑

(3) の議事について、質疑はなし。

(4) 今後のスケジュールについて 資料 8

今後は利用促進事業として、7月31日の利用促進ツアー、8月以降はバス通信の発行、小中学校におけるモビリティマネジメントを実施予定。9月下旬にバス導入、10月4日にバス祭りを開催。バス祭りの内容が固まる9月上旬に協議会を開催予定。

質疑

(4) の議事について、質疑はなし。

6 その他

近藤会長

次回協議会は来年9月上旬を予定しているので、委員の皆様の出席をお願いします。

増輪事務局長

バス祭りの開催にあたり、車両展示会におけるDMVの出展についてはJR北海道、バス車両の出展についてはバス協会に、多大なご尽力をいただいたので、ここでお礼申し上げます。

五十嵐事務局員

バスツアーに関して、当選者を先着順としたため、順位付けをする可能性がある。その場合、協議会の委員のうち、中村委員、土肥委員、高橋(昭)委員に抽選をお願いしたい。

小林篤副会長(北海道運輸局札幌運輸支局首席運輸企画専門官)

限定定期の料金改定について、運輸局にて手続きが必要なので、滞りなくお願いしたい。

7 閉会 (近藤会長)